

佐賀県立博物館報 No.42

佐賀市城内1丁目15番23号 TEL 0952(24)3947



形唐津茶碗「玄海」 高10.5 口径13.9×16.9 高台径7.0(飯洞裏下窯)



半筒形の茶碗で胴をほぼ四方に作っている。高台は二重高台に削り出されている。見込は平らに作られ、胴まわりに深いヘラ彫りで×印の連続文様をほどこし、全面に長石袖を厚くかけている。袖膚にはやや荒い貫入が生じ、高台には白い土膚がみえている。どっしりとして落ちつきのある唐津の名陶の一つである。岸岳飯洞裏下窯から類似の陶片が出土しているところから同じ窯で焼成されたものであろう。

目次

- 形唐津茶碗「玄海」……………1
- 「古唐津展」開催要項、唐津焼の種類……………2-7
- 博物館日誌、行事のお知らせ、人事異動……………8

「古唐津展」開催要項

名称：古唐津展——肥前陶器の歴史と美を探る——

主旨：唐津焼は、肥前一帯で焼かれた陶器で室町時代に渡来した李朝陶工によって胎動期をむかえ、日常雑器の製造から発展していく。

桃山時代以降からは、唐津焼は茶人にも愛用され、茶陶として高い評価を受けるようになった。

このたび当館では、伝世する名品をはじめ県内の古窯跡及び日本各地の近世遺構から出土した陶片、更に関係資料を展覧し唐津焼の歴史と技法、並びに工芸史上の価値を探り、併せて当館の茶室清恵庵の創立五周年を記念するものである。

主催：佐賀県立博物館

会場：佐賀県立博物館

会期：昭和53年10月7日(土)～11月5日(日) 会期中無休

観覧料：

| | 個人 | 団体(20名以上) |
|--------|------|-----------|
| 大人 | 300円 | 200円 |
| 大学・高校生 | 200円 | 100円 |
| 中学・小学生 | 100円 | 50円 |

講演会の開催：会期中講演会を開く。

図録の発行：展示資料の図録を発行する。

展示内容

I 唐津の種類と名称

II 唐津の源流

成形技法と釉薬の流れ

III 唐津の展開

① 唐津の起こり(岸岳古唐津)

② 肥前の古窯

③ 磁器への展開

IV 唐津の交流

① 美濃と唐津

② 上野・高取と唐津

③ 近世遺構出土の古唐津

V 名陶唐津

茶入・茶碗・水指・向付他

VI 参考資料

陶芸技法パネル(韓国、日本)文献他

唐津焼の種類について

唐津焼には様々の種類があり、色々な呼び方がされている。

茶碗、壺、水指、鉢、向付、皿、水注、花生、徳利、盃などは形態上から分類された呼称であるが、釉の種類や製作技法の特徴によって分類すると、大体次の10種類余りに要約される。

1. 奥高麗

奥高麗茶碗は井戸、熊川、呉器、柿の帯などの高麗茶碗を手本とし、最初から抹茶碗として作られた無地茶碗をいっている。点茶が盛んに行われた桃山時代、人々は高麗の茶碗を珍愛したが、舶載のものが少なく、そのために高麗茶碗に似たものが焼山・雲屋の谷・藤の川内・市ノ瀬高麗神・川古窯の谷・波の元・天草野などの諸窯でつくられた。

釉は長石釉で白、桃紅色、薄い柿色、淡い青磁色に発色し、高台は低い竹の節、高い直立型、八字高台などがあり、見込みには重ね焼きした跡の目跡が残っている。

2. 瀬戸唐津

瀬戸唐津は尾張瀬戸の釉を用いるためにこの名があるといひ、また瀬戸に酷似している唐津であるためにこの名があるといわれる。

瀬戸唐津には本手と皮鯨手の2種がある。

a 本手瀬戸唐津

砂まじりの白土に長石釉がかり、灰白・白・枇杷色に発色し、貫入が発達しており、高台削りの部分には梅

花皮がみえる。

b 皮鯨手

平茶碗の口縁に鉄釉が施され、鯨の皮に似た色に発色していることからこの名がある。

3. 絵唐津

鉄釉で文様を描き、長石釉をかけている。絵唐津の意匠には李朝風な簡素なもの、織部焼に似たものがある。

文様としては草文がもっとも多く、抽象文は、点、三星、円、X印などがみられ、具象文としては、薄、葦、唐草、竹、笹、柳、野ぶどう、藤、三葉、水草、松、梅、桐、海老、魚、千鳥、雀、鳥、兎、桐干、橋、車、山水など多様であり、古窯のほとんどで絵唐津が焼かれている。

4. 彫唐津・彫絵唐津

成形後、胎土がやわらかいうちに、X印など簡単な文様を彫りつけ長石釉をかけて焼いたものをいっている。彫文様として鉄釉を流しかけたものを彫絵唐津といっている。

彫唐津茶碗の陶片が飯調裏下窯から出土している。

5. 斑唐津

薬灰釉をかけ、白く焼きあがるが、燃料の松灰がふりかかり青い斑文が出るところからこの名がある。

茶碗、皿、鉢、壺、徳利、盃などがある。斑唐津を焼いた窯としては、帆柱、岸岳山屋、暹納屋谷、山瀬などの岸岳系諸窯がよく知られているが、櫃の谷、大川原、

樵の峯、藤の川内、釜石原、甲の原、裾野笠早山、阿房谷、道園、焼山、市ノ瀬高麗神の諸窯でも焼かれている。

6. 朝鮮唐津

元米は朝鮮産か唐津産か区別つかない、叩きづくりで板おこしになり、貝高台又は越敷高台で内部に青海波文があり、土灰釉か鉄鉛釉をかけた壺などを朝鮮唐津とよんだといわれるが、現在では、白濁色の霰灰釉と黒鉛釉をかけたものを朝鮮唐津とよんでいる。作品には水指、花生、德利、茶碗、皿などがあり、藤の川内窯で焼かれたものが多い。

7. 青唐津・黄唐津

木灰釉をかけて焼いたものであるが、釉の中に含まれている鉄分及び胎土に含まれている鉄分が、還元炎では青く発色し青唐津となり、酸化炎では淡黄褐色に発色して黄唐津となる。

茶碗、皿、鉢、向付、德利などがある。

肥前の諸窯で焼成されているが、飯洞裏下窯、飯洞裏上窯で焼かれたものももっともすぐれたものとされている。

8. 辰砂唐津

釉に含まれる銅が還元炎によって赤く発色したものを辰砂唐津とよんでいる。

銅は還元炎によっては赤、酸化炎によっては緑に発色するが、釉の中で還元炎、酸化炎と焼成され赤と緑の窯変の美がみられる。

辰砂唐津を焼成した窯としては、樵の峯窯、宇土の谷窯が知られている。

9. 黒唐津・蛇蝎唐津

黒唐津は木灰釉に鉄分が多量に入った釉をかけたもので、釉中の鉄分の多少により、黒色、錆色、柿色に発色する。作品には、茶碗、壺、水指、花入などがあり、ほとんどの窯で焼成されている。

蛇蝎唐津は黒唐津の一種で、黒釉の上に失透性の長石釉をかけて焼成したもので、釉肌か、蛇やかげの肌に見えるところからその名がある。香茶碗や香鉢にすぐれたものがあり、幸祥古場・祥古谷で焼成されている。

10. 三島唐津

慶長の役後、渡来した韓国南部地方の陶工達によって伝えられた技法を示すものに三島唐津がある。

三島唐津には象嵌、刷毛目、型紙刷毛目、二彩とあるが、いずれも白土を使用する点共通している。

a 象 嵌

象嵌は胎土のやわらかいうちに、

刻印を押ししたり、線彫りしてその文様にそって白土を嵌め込むものである。茶碗、水指、鉢などが小峠、庭木、小田志、大草野の諸窯でつくられている。

b 刷 毛 目

胎土に含まれている鉄分による黒さを隠すため、又、白磁に似せるため、白土で白化粧するが、刷毛を用いて白土を塗るところから刷毛目とよばれる。

c 型紙刷毛目

文様を切り抜いた型紙の上から刷毛で白土を塗り込んだものを型紙刷毛目とよんでいる。

d 櫛刷毛目

白化粧した後、櫛を用いて文様を描き出したものを櫛刷毛目とよんでいる。

e 二 彩

白土で白化粧した上に鉄釉と銅釉を使って褐色と緑色の二彩で松文などを描いているものをとくに二彩唐津とよんでいる。

皿、鉢、水盂、花生などに、この手法が用いられ、野山窯、川古窯の各窯で焼成されたものが多い。

11. 献上唐津

幕府に献上した唐津焼のことで、寛永年間(1624-44)唐津城主寺沢志摩守広高が樵の峯の工人に命じてつくらせたのに始まり、以後大久保・松平・土井・水野の代々の唐津城主の時につくられた。宝永4年(1707)から坊主町でつくられ、享保19年(1734)からは唐人町でつくられるようになった。この種は大正期まで焼成されていた。

絵付けは御用絵師によってなされ、胎土はきめ細かく、雲鶴文の象嵌がよく知られている。



1 奥高麗茶碗「糸屋唐津」 高7.5 口径15.4 高台径5.3



2-a 本手瀬戸唐津茶碗 高7.0 口径14.5 高台径5.5



2-b 瀬戸唐津皮鯨茶碗 高6.0 口径15.9 高台径5.1



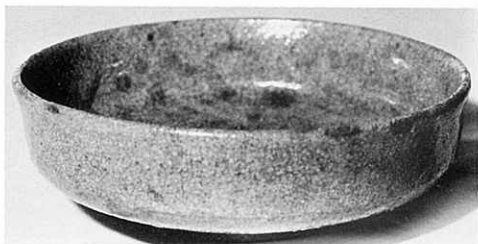
3 絵唐津松文大皿(重要文化財)
高10.9 口径43.9 高台径13.3(斐屋の谷窯)



5 斑唐津ぐいのみ 高5.5 口径6.2×7.0 底径4.0
(帆柱窯)



6 朝鮮唐津德利 高21.5 口径55 底径8.0
(藤の川内窯)



7 青唐津馬盃茶碗 高4.5 口径8.0 高台径5.5(飯洞裏窯)



9 黒唐津(蛇蛸唐津)茶碗 高11.9 口径8.3 高台径5.5



10-a 三島唐津象嵌茶碗 高7.3 口径13.5×13.8 高台径5.7(大草野窯)



10-b 三島唐津筋刷毛目德利
高21.0 口径5.3 底径6.8



10-c 三島唐津型紙刷毛目将棋駒文平茶碗
高5.0 口径18.5 高台径5.8(川古窯の谷)



11 献上唐津(土井唐津)伊羅保茶碗 高6.7 口径14.0×14.8 高台径5.6(坊主町窯)

| | | |
|-------|----------------------------|--|
| 5月26日 | 光風会理事田村一男氏来館 | 県政学童バス55名来館 |
| 5月29日 | 九州歴史資料館高洋彰氏来館 | 8月6日 「七夕書道展」終了(総観覧者数1,786名) |
| 6月15日 | 「佐賀美術協会展」開場 | 8月8日 「県書作家協会展」開催 |
| 6月16日 | 九州大学教授岡崎敬氏来館 | 8月10日 岡山大学教養部長鎌木義昌氏、国学院大学 助教小林達雄氏来館 |
| 6月21日 | 文化庁記念物課福田枝官来館 | 8月11日 文化庁山本信吉枝官来館 |
| 6月22日 | 鉄斎美術館長富岡益太郎氏来館 | 8月13日 「県書作家協会展」終了(総観覧者数759名) |
| 6月25日 | 「佐賀美術協会展」終了(総観覧者数2673名) | 8月16日 奈良文化財研究所所長坪井清足氏来館 |
| 7月13日 | 広島大学名誉教授米倉次郎氏来館 | 8月19日 「九州現代工芸佐賀展」開催 |
| 7月22日 | 「独立C S展」開場 | 8月22日 移動博物館打合せ会 |
| 7月28日 | 江頭民雄氏来館 | 8月25日 文部省加戸地方課長来館 |
| 7月30日 | 山口県立山口博物館梅田正氏来館 | 8月27日 「九州現代工芸佐賀展」終了(総観覧者数 1,095名) |
| 8月1日 | 「七夕書道展」開催 | 8月28日 現代工芸九州会会長中里太郎右衛門氏来館 |
| 8月2日 | 外務省アメリカ局長中島敏次郎氏来館 | |
| 8月3日 | 韓国文化財普及協会事務局長安敬高氏他3 名来館 | |

行事のお知らせ

昭和53年度

| 常 | | 設 | | 展 |
|----------------|----------------------------------|---|--|---|
| 佐賀県の歴史と 文化展 | 5月3日～10月1日 54年 12月3日～3月31日 | 大人 50(30) 大・高生 30(20) 中・小生 20(10) | 佐賀県の地質や自然および先史時代から現代 にいたる歴史と文化についての、理解を深める ために自然史、考古、歴史、美術工芸、民俗の 各部門について、系統的に資料を展覧する。 | |

(月曜、祝日の翌日休館) 団体は20名以上、()内は団体料金

| 企 | | | 画 | | | 展 | | |
|---------------------------|----------------------------|--|------------|----------------------------|------------------|---------------|-----------------------------|--|
| 展覧会名 | 会期 | 観覧料 ()内は団体料金 | 展覧会名 | 会期 | 観覧料 ()内は団体料金 | 展覧会名 | 会期 | 観覧料 ()内は団体料金 |
| 理科作品展 | 9月14日～ 9月25日 19日休み | 無料 | 佐賀県高等学校美術展 | 12月15日～ 12月20日 会期中無休 | 無料 | 九州グラフィックデザイン展 | 54年1月21日 ～3月25日 会期中無休 | 無料 |
| 古唐津展 一肥前陶器の歴史と 美を探る | 10月7日～ 11月5日 会期中無休 | 大人 300(200) 大・高生 200(100) 中・小生 100(50) | 書初展 | 1月27日～ 1月31日 会期中無休 | 無料 | 勤労者美術展 | 2月4日～ 2月8日 会期中無休 | 無料 |
| 佐賀県美術展 | 11月18日～ 11月26日 会期中無休 | 大人 200(150) 大・高生 100(70) 中・小生 50(30) | 佐賀大学卒業制作展 | 2月20日～ 2月23日 会期中無休 | 無料 | 地下の遺宝展 | 3月3日～ 3月25日 会期中無休 | 大人 100(80) 大・高生 50(30) 中・小生 30(20) |
| 佐賀県高等学校書道展 | 11月30日～ 12月5日 会期中無休 | 無料 | | | | | | |
| 佐賀県学童美術展 | 12月8日～ 12月12日 会期中無休 | 無料 | | | | | | |

会期は都合により変更されることがあります。

修学旅行等の計画に博物館の見学を折込んで下さい。

●人事異動

昭和53年7月31日付

・退職 学芸課資料係学芸員 三輪英夫(東京国立文化財研究所へ)

昭和53年8月1日付

・新採 学芸課資料係学芸員補 松本誠一

| | |
|-------|---------------|
| 博物館報 | 第42号 |
| 発行年月日 | 昭和53年9月1日 |
| 編集 | 松崎利彦 |
| 発行 | 佐賀市城内1丁目15～23 |
| | 佐賀県立博物館 |
| 印刷 | 佐賀印刷社 |